

東御市水道事業経営戦略（令和6年度改定・概要版）

1 経営戦略とは

中長期的な事業運営の方針を示す経営の基本計画として、当面の間に取り組むべき事項や方策を示したものです。

2 計画期間

令和7年度（2025年度）から令和16年度（2034年度）までの10年間

3 将来の事業環境

給水人口と料金収入の推計を図1に示します。

計画期間の最終年度である令和16年度の料金収入は、令和5年度と比較して約2,700万円減少する見込みです。

4 経営の基本方針と具体的な取組・目標等

基本方針を基に実施する計画期間内における具体的な取組・目標等は右記のとおりです。

5 投資・財政計画

収益的収支の見通しを図2に、資本的収支と資金残高の見通しを図3に示します。

本経営戦略の計画期間中は、7,000万円以上の黒字を維持し、資金残高も増加していく見込みのため、料金改定の必要はありませんが、次回の経営戦略の見直しでは、料金改定についての検討が必要となる可能性があります。

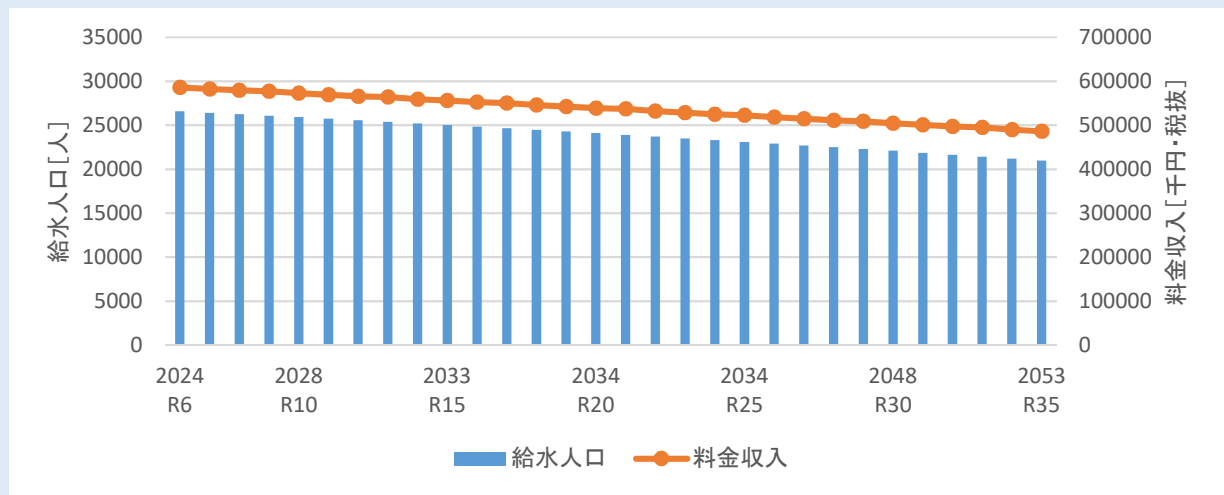


図1 給水人口と料金収入の推計

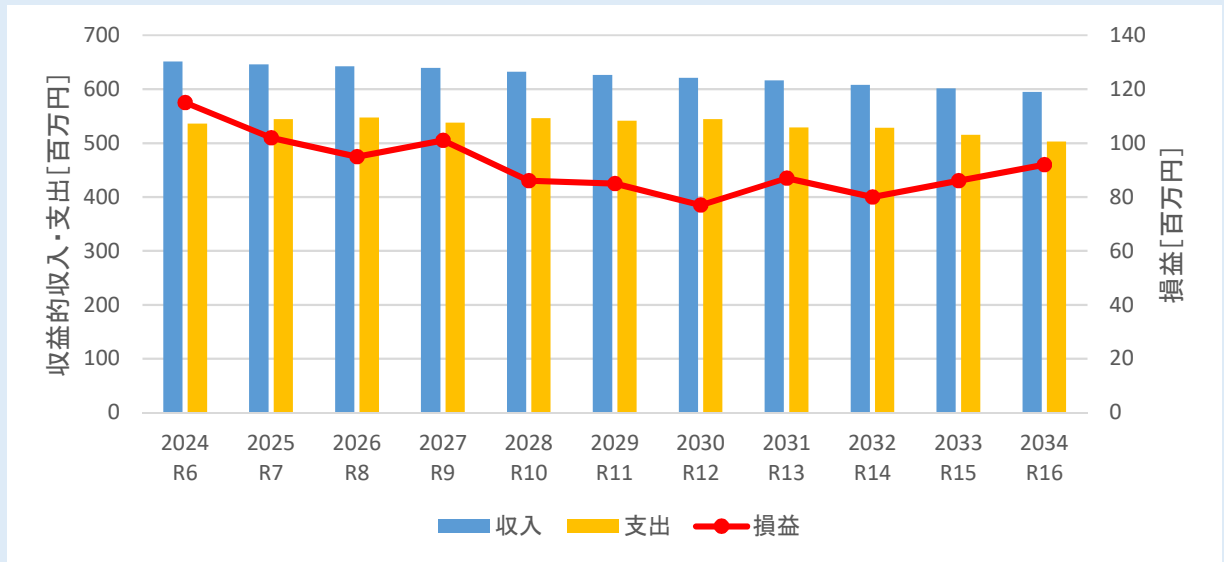


図2 収益的収支の見通し

【経営の基本方針と具体的な取組・目標等】

＜強靱な水道施設の構築＞

災害時等に拠点となる配水施設である聖第3水源、出場配水池、大石配水池に可動式発電機を整備します。

また、老朽化に伴う湯の丸系送水管の更新工事、耐震化を含めた上八重原水源系の配水管の更新工事を実施します。

＜安全で安心な水の確保＞

水質改善として、西宮水源に新水源を整備するための深井戸工事、上八重原水源にマンガンを除去するためのろ過設備建設工事、奈良原第1・第2水源にクリプト指標菌対策のため紫外線処理設備整備工事を実施します。

＜持続可能な事業運営基盤の確立＞

本経営戦略に沿って、計画的に事業が進められ、健全かつ安全な事業運営が行われているかを検証するため、経営比較分析表にある3つの経営指標について、目標値を表1のとおり設定します。

経常収支比率については、単年度の収支が黒字であることを示す100%以上となっている必要があり、良好な経営が維持されているかを確認するための指標となります。

料金回収率については、給水に係る費用が給水収益で賄えていることを意味する100%以上を維持することが望ましく、この指標も良好な経営が維持されているかを確認するための指標となります。

企業債残高対給水収益比率については、明確な数値基準はありませんが、投資・財政計画に沿った企業債の活用、資金残高の確保を確認するための指標となります。

表1 経営目標値

経営指標	基準値 (令和5年度)	目標値 (令和16年度)
経常収支比率	128.48%	118.55%以上
料金回収率	129.18%	117.63%以上
企業債残高対給水収益比率	205.67%	174.44%以下

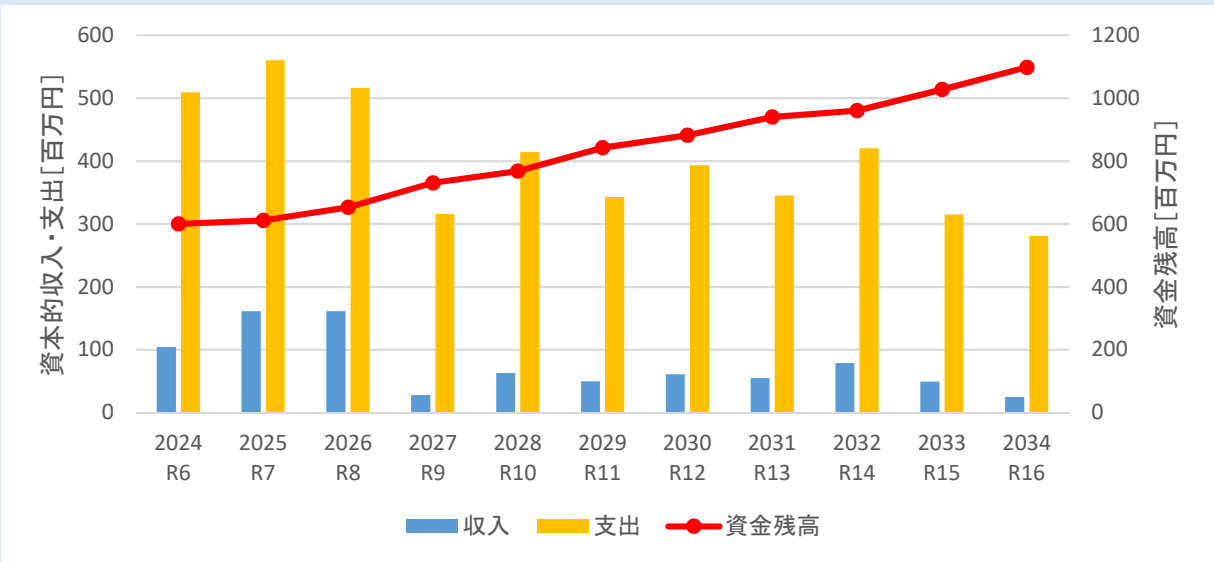


図3 資本的収支と資金残高の見通し